

# 小児健康生活支援論Ⅱ指導案

- 1 履修単位数 1 単位
- 2 実施日時 令和3年11月8日(月) 第3時限
- 3 学 級 専攻科1年 (38名)
- 4 使用教科書 系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院  
系統看護学講座 小児臨床看護各論 医学書院
- 5 単 元 名 消化器症状を示す子どもの看護

## 6 単元設定の理由

身体的あるいは精神的な不調は、何らかの症状として現れる。子どもが体験する症状は、ただちに症状の改善に努めなければ生命の危機にいたることがある。しかし、子どもは発達の途上にあり諸機能が未熟であるため、その症状を正確に伝えることが困難な場合が多い。看護師には、小児の特徴を理解したうえで、子どもの症状を適切にアセスメントする能力が求められる。

対象学級は、小児を取り巻く環境や一般的な成長・発達など、小児看護学における基本的な内容についてはすでに履修しており、現在その知識を基盤とし、病気や障害を持つ子どもとその家族について学びを深めている。しかし、実際に子どもと接したことのある学生は少なく、子どもを具体的にイメージできず、小児の特徴をふまえたアセスメントが難しい現状がある。また、9月に専攻科入学後初めての臨地実習を経験し、自分で情報収集することの難しさを実感しているところである。

そこで、小児外来の場面において子どもにおこりやすい消化器症状を取り上げることで、子どもを具体的にイメージし、自分で情報収集する力を養い、必要な看護について思考を深めさせたいと考え、本単元を設定した。また、対象学級の学生は、個々に意見や考えを持っているものの、全体の前では自信がなく、自ら進んで発言することが少ない傾向がある。ICTを活用し、発言が苦手だと感じている学生に自分の意見や考えを表現する機会を作りたい。

## 7 単元の目標

1. 子どもにおこりやすい消化器症状の原因を理解する。
2. 消化器症状を示す子どもに対し、小児の特徴を理解したうえで、あらゆる可能性を考えた観察項目がわかる。
3. 消化器症状を示す子どもとその家族の状態をアセスメントし、必要な看護を考えることができる。

## 8 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
消化器症状を示す子どもと家族の看護に関心をもち、既習の知識と関連づけて意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	小児とその家族の基本的特性をふまえて、消化器症状が及ぼす諸問題の解決を目指し、あらゆる可能性を考えて、患児の状態を的確にアセスメントできるように、自ら思考を深めている。	消化器症状を示す子どもと家族の看護について、その援助に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	消化器症状を示す可能性のある疾患についての知識を有し、消化器症状を示す子どもとその家族の看護について、科学的根拠に基づき理解している。

## 9 指導と評価の計画(6時間)

- 第1次 消化器症状の原因と情報収集・・・3時間
- 第2次 外来における看護の特徴・・・1時間
- 第3次 消化器症状を示す子どもの看護・・・2時間(本時)

	【ねらい】・◆学習活動	評価の観点				評価方法
		関	思	技	知	
第1次	代表的な消化器症状について、その原因を知り、小児の成長・発達や病態生理と関連づけて、正確にアセスメントするための知識を習得する。	●			●	ワークシート 観察 小テスト
第2次	外来における小児とその家族の特徴を理解し、小児外来の看護師の役割を考えることができる。		●		●	ワークシート 観察

第3次	外来に来た消化器症状のある子どもを具体的にイメージして、必要な情報収集ができる、患児にとって優先度の高い看護を考えることができる。	● ●	グループワーク ワークシート 発表
-----	---	-----	-------------------------

10 本時の指導目標

1. 消化器症状を正確にアセスメントするための情報収集ができる。(技能)
2. 事例の状態をアセスメントし、必要な看護を考えることができる。(思考・判断・表現)

11 本時の展開

時間(分)	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
導入 (5分)	前回までの内容と本時の学習目標を確認する。	前回までの内容を想起させ、本時の目標は黒板に明示する。		
展開1 (45分)	<p>小児外来に来た消化器症状を示す子どもの事例1 [ロタウイルス]</p> <p>正確にアセスメントするために必要な情報は何かを考える。 *個人ワーク (2分) グループで共有し、出た意見について、なぜその情報が必要なのかをメンバー間で意見交換する。 MetaMoJi Classroom (グループ学習モード) (5分)</p> <p>必要な情報について、どのように情報収集するかも含めて発表する。(13分)</p>	<p>事例の提示は、外来受診時の最小限の情報にする。(Power Point)</p> <p>既習の知識と照らし合わせるように助言し、必要な情報は何か考えさせる。</p> <p>1人1つ以上の意見を出すように促す。 なぜその情報が必要なのかを話し合わせる。 MetaMoJiのモニタリング機能を活用し、嘔吐、下痢、脱水、感染などの観察項目が出てきているか確認する。</p> <p>全ての班に1つずつ発表させる。 実際に子どもやその家族に聞くように情報収集させる。 出てきた情報を1つずつ提示する。</p>	状況や発達段階に応じた情報収集ができる。(技能)	ワークシート(個人・グループ)発表
	該当疾患についての看護のポイントを復習する。(10分)			
	必要な看護について考え、意見を出す。 MetaMoJi Classroom (一斉学習モード) (個人3分) (全体12分)	今必要な看護と今後必要になってくる看護、双方について考えさせる。まずは個人で考え、その後、話し合いながらすすめて良い事を説明し、グループニングさせる。	起こりうる状況を想定して、看護を考えることができる。(思考・判断・表現)	ワークシート(個人)
展開2 (30分)	事例2 [急性虫垂炎]を提示し、事例1と同様に展開する。	緊急度の判断も考えるよう促し、腹痛、嘔吐、発熱、炎症反応などについて観察できるよう助言する。	展開1と同様	展開1と同様
まとめ (10分)	本時の学び・感想を記入する。 MetaMoJi Classroom (個別学習モード)	様々な可能性を考えてアセスメントすることの重要性に気づかせる。		